

第1回大山入山料徴収社会実験実行委員会  
議事要旨

1. 日時：令和元年8月5日（月）13：30～15：20

2. 場所：米子合同庁舎4階 大会議室

3. 出席者：

（委員・敬称略）

【関係機関・団体】

大賀 雅司（林野庁 鳥取森林管理署 署長）

甲斐 晴久（林野庁 鳥取森林管理署 主任事務管理官）

山根 均（大山旅館組合 組合長）

足立 敏雄（一般社団法人 大山観光局 代表理事）

矢田貝 繁明（一般社団法人 大山観光局 シニアマネジャー）

三原 勝弘（一般財団法人 自然公園財団鳥取支部 副所長）

小原 正義（一般社団法人 大山ガイドクラブ 代表理事）

上野 紀代子（一般社団法人 大山ガイドクラブ 理事）

北浦 宏志（中国山岳ガイド協会 会長）

亀尾 崇（鳥取県山岳・スポーツクライミング協会 副会長）

谷野 彪（日本山岳会山陰支部 自然保護委員長）

井田 武夫（鳥取県勤労者山岳会 会長）

池田 泰二（鳥取県勤労者山岳会 米子労山会長）

【外部有識者等】

柘植 隆宏（甲南大学経済学部 教授）

大土 洋史（株式会社ヤマップ マネージャー）

森下 貴郎（株式会社ヤマップ マネージャー）

（事務局）

辻田 香織（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 所長）

中山 良太（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官）

伊藤 信広（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 外客受入施設専門官）

池内 富久（鳥取県緑豊かな自然課 課長）

奥村 哲明（鳥取県緑豊かな自然課 係長）

後藤田 拓也（鳥取県西部総合事務所生活安全課 課長）

小谷 博（鳥取県西部総合事務所生活安全課 参事）

田村 晴久（鳥取県西部総合事務所生活安全課 係長）

田中 稔（鳥取県西部総合事務所地域振興局 参事）  
池原 真（鳥取県西部総合事務所地域振興局 課長補佐）  
徳永 貴（大山町観光課 課長）  
西村 済（大山町観光課 主任）

#### 4. 主な意見

- ・ 地域自然資産法に基づいて収受を行うのか。また、条例や規則を策定するのか、協力金なのか寄付なのか、そのあたりきちんと定義づけを行い、登山者に十分な説明をすることが重要である。
- ・ 入山料を徴収することは賛成だが、善意であろうとお金をいただく以上登山者に納得してもらわないと、お金を支払うという行動に至らないと思う。鳥取県や大山町が大山の保全のため年間どの程度の費用をかけているのかを説明するなどして、世間の理解を得ることが重要である。
- ・ 協力金の額を決める場合は、経費に関する資料を会議の場にも用意していただきたい。
- ・ 実費がどのくらいかかっているのかが示されていなければ議論できない。もちろん現状の経費補填だけが目的ではなく、大山の環境に対する意識の向上も目的であると思う。そのあたりもきちんと議論しておかないといけない。
- ・ 大山は地元の方が多く登られる山であるため、地元の方への声かけの仕方は注意したほうが良いのではないかと思う。中長期的な実施する場合には、年間パスを作成したり、今回の社会実験においても一度支払っていただいた方は免除されるなど配慮してもよいかもしれない。任意であっても、徴収員から声をかけられると圧迫感があると思うので、声かけにおいては地元住民に配慮していることがわかるように工夫していただきたい。
- ・ 目的と事後どのようにするのかをセットにして考えたほうが良い。昨年度社会実験を行っている妙高においても、集まった協力金がきちんと使われているのか疑心暗鬼の方も多し。自治体に確認すると調査報告書に掲載していると答えられるが、それが登山者に伝わっていない部分がある。発信と伝達は別。どのように使われたかということはきちんと伝えたほうが良いと思う。
- ・ 現在大山は工事の関係で山頂まで登れない状況であるため、不満を感じている登山者は多い。そのような中で、お金を徴収するためには、登山者の方にきちんと理解をして納得をしてもらう必要がある。もう少し登山者にも納得してもらうようなPRをしたり、準備をしてから進めたほうが良いと思う。
- ・ 登山者への周知はとても難しい。工事のヘリコプターが飛ぶ日を周知するために我々も色々な取り組みを行っているが苦労している。掲示物やホームページはあまり見られない。人を登山口に配置して登る人に直接伝えるのが一番効果的である。
- ・ 山頂まで登れないということで社会実験を行う時期としてはあまりよくないのは確かである。できれば、工事がある程度終わって不満足が解消されてからの方が実際の状況

の社会実験になるのではないか。

- ・ これまで大山では長い間トイレの問題を抱えてきた。一番行政にやっていただきたいことは急ぐことである。来年、再来年と遅らせていくと、いざ機運が高まったとしても予算がつかなくなるなどして実行できなくなる可能性がある。国立公園満喫プロジェクトの関係などでようやく取り組める状況になりつつあるのだから、今の状況で結果が少しでも良いものに近づくように考えればいいのではないか。延期する必要はないと思う。